

FREED

FREED Spike

PRESS INFORMATION 2011.10.27

毎日の暮らしに、趣味や遊びに、もっと身近で快適に進化。
ハイブリッド車も加わった、Newフリード & Newフリード スパイク。

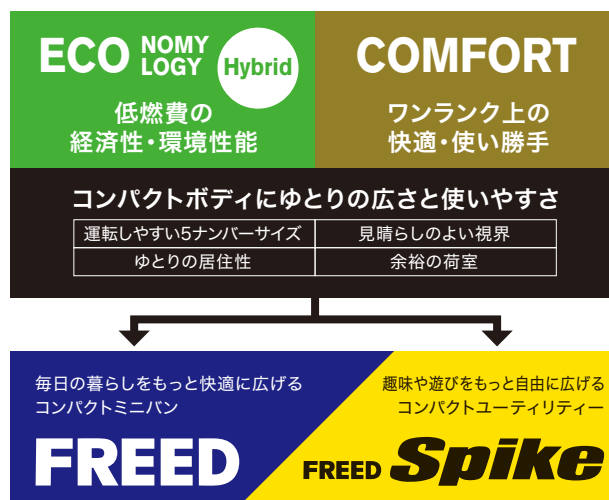
コンパクトなボディにゆとりの広さと実用性を備えたミニバン、フリード。
その居住性に趣味や遊びを広げる荷室を備えたユーティリティワゴン、フリード スパイク。
発売以来、多くの方に親しまれているこのフリード シリーズを、
今回Hondaは、よりいっそう多くの人に使っていただけるよう、
コンパクトカーだからこそもっと経済的に、
なおかつ、コンパクトカーであってももっと快適に進化させたいと考えました。

Hondaならではの優れたパッケージング技術を活かしながら、
独自の軽量・コンパクトなハイブリッドシステム「エンジン+IMA※」を搭載したタイプを新たに設定。
バッテリーなどのユニットを後部床下に収めるなど、3列目の居住性(フリード)や、
カーゴルームの使い勝手(フリード スパイク)を損なうことなくハイブリッド車を実現し、
お求めやすい価格設定にも努めました。
しかも、ガソリンエンジン車も含め、よりゆったり座れるシート設定や上質な装備、
使いやすさの工夫を施すなど、心地よさをいっそう向上。
「低燃費による経済性・環境性能」と
「ワンランク上の快適・使い勝手」を身に付けた
新たなラインアップへと進化しました。

毎日の暮らしに、より気兼ねなく使える。
趣味や遊びに、より気軽に使える。
しかも、一人ひとりに、より快適に。
これまで以上に多くの人に身近な
「Newフリード」&
「Newフリード スパイク」、登場です。

※IMA=インテグレートッド・モーター・アシスト

Newフリード シリーズ

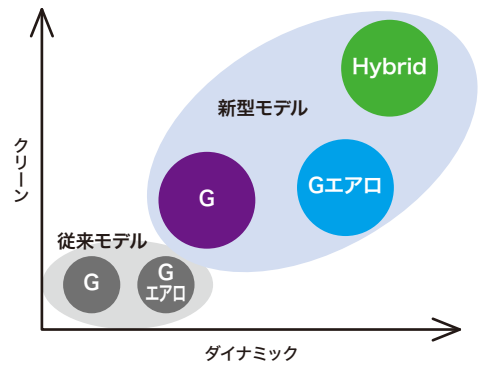


洗練を深めながら個性を際立たせたエクステリアデザイン。

「クリーン&ダイナミック」に磨きをかけ、さらに3つの個性を際立たせた新エクステリア・ラインアップ。

街に映えるスタイリッシュなフォルムを基調に、今回はトップグレードにハイブリッド車を加えたことで、燃費に寄与する空力を感じさせる「クリーン」なイメージと、コンパクトなミニバンでも躍動感に満ちた「ダイナミック」な印象を強調したいと考えました。そのうえで乗る人の好みやライフスタイルが表現できるよう、3方向のデザインを構築。「クリーン&ダイナミック」のベースグレードとなるG、よりダイナミックなGエアロ、そしてクリーンさをより強調したHybridと、個性をさらに際立たせています。

■エクステリアデザイン 新フォーメーション(フリード)



FREED 1.5L i-VTEC + IMA CVT/FF



新登場

HYBRID

Photo : フリード Hybrid・ジャストセレクション 6人乗り



1.5L i-VTEC CVT/FF 5AT/4WD

Gエアロ



Photo : フリード Gエアロ 6人乗り (FF)

G



Photo : フリード G (FF)

■主なエクステリアの特徴(フリード)

	G	Gエアロ	Hybrid
フロントグリル	新規専用デザイン	新規専用デザイン	新規専用デザイン
ヘッドライト	新規専用デザイン	新規専用デザイン	新規専用デザイン
LEDリアコンビネーションランプ	新規デザイン		新規専用デザイン
エアロフォルムバンパー	—	○	○
サイドシルガーニッシュ	—	○	○
テールゲートスポイラー	—	○	○
ホイール	専用ホイールキャップ	専用アルミホイール	専用ホイールキャップ

FREED Spike 1.5L i-VTEC + IMA CVT/FF

新登場

HYBRID



Photo : フリード スパイク Hybrid・ジャストセレクション



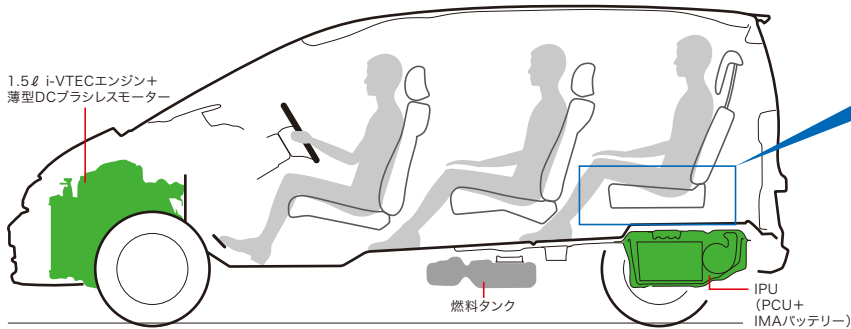
Photo : フリード スパイク Hybrid

Honda独自の技術が生んだ、広くて使いやすいハイブリッド車。

居住空間やカーゴルームの広さを損なわずにハイブリッド車を実現した、Hondaならではのパッケージング技術。

シンプル構造で軽量・コンパクトなIMAの利点を活かし、PCU(パワー・コントロール・ユニット)とIMAバッテリーなどを統合したIPU(インテリジェント・パワー・ユニット)を、後部床下にすっきり収納。薄型燃料タンクの2列目シート下配置などによるフロア設計との相乗効果で、ガソリンエンジン車同等の居住性やシートアレンジ、荷室の使い勝手などを実現しています。

FREED HYBRID



ヒップポイント ±0mm

フロア高 +65mm

↑

ハイブリッド車

ヒップポイント

フラットフロア

ガソリンエンジン車

IPU搭載によって3列目シート床下が65mm上昇したものの、脚部を工夫することでヒップポイントをガソリンエンジン車と同じ高さに設定。クッションも同じ厚さを確保しています。

FREED Spike HYBRID

反転フロアボード

フラット状態 ±0mm

↓

↑

スロープ状態 +35mm

フロアサイドボックス

ハイブリッド車

ガソリンエンジン車

IPU搭載による床面の上昇を35mmに抑えたうえで、反転フロアボードを新設計。スロープモード時の積載性にほとんど影響なく、フラットモード時ではガソリンエンジン車と同じフロア高を実現。また、小物類を収納できるリッド付のフロアサイドボックスを装備し、トップグレードとしてさらに使い勝手を高めています。

「先進&クリーン」イメージのハイブリッド車専用インテリア。

ハイブリッド車のインテリアには、「先進&クリーン」なイメージを与えました。その象徴として、低燃費運転の状況を示すアンビエントメーターやモーターのアシスト/チャージ表示などを配したデジタルメーターを採用。さらに、フリード Hybridはセンターパネルやステアリングホイールガーニッシュにシルバー塗装を施し、専用インテリアカラーを設定。フリード スパイク Hybridにはチタン調ステアリングホイールガーニッシュを装備しています。

■ハイブリッド車専用デジタルメーター

アンビエントメーター

大型デジタルメーター

モーターアシスト/チャージ表示

マルチインフォメーション・ディスプレイ



Photo: フリード Hybrid・ジャストセレクション 写真のオーディオホールリッドはディーラーオプションメーター類は撮影のため点灯

ハイブリッド車ならではの優れた経済性と環境性能。

クラス^{*1}トップレベルの低燃費と、ゆとりのトルクを実現。ミニバンにふさわしいハイブリッドを追求し、2バルブ方式や気筒休止システムを採用した「1.5L i-VTEC+IMA」(ハイブリッド車)。

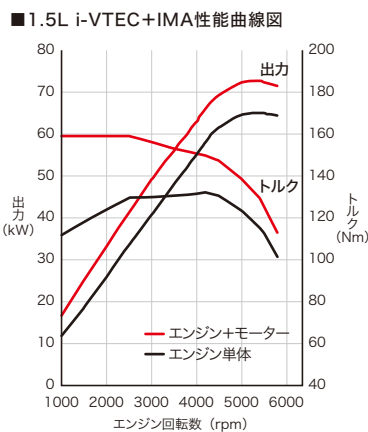
力強いモーターアシストが得られることを前提に、多人数乗車や多積載でのゆとりある走りや優れた燃費性能を考慮し、2バルブ方式の1.5L i-VTECエンジンを採用。気筒あたり2つのスパークプラグを備え点火時期を個別に制御するシステムや、減速時に全気筒休止することでポンピングロスを低減し電力回生率を高めるVCM^{**2}を搭載し、徹底的に低燃費化。これに、軽量・コンパクトで高効率なIMA(インテグレートド・モーター・アシスト)を組み合わせました。その結果、モーターのみでの走行やアイドリングストップ機構なども加え、21.6km/L^{**3}というクラス^{*1}トップの低燃費を達成。同時に、モーターアシストによる低速域からのトルクフルな走りを実現しています。

※1 5ナンバーサイズミニバン(2011年10月現在 Honda調べ)

※2 バリアブル・シリンダー・マネージメント ※3 JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)

【街中の走行に適したトルク特性】

1.5L i-VTECエンジンについては、2,500~4,200回転までフラットな高トルクを発生するよう設定。これに発進直後から高トルクを生むモーターアシストを組み合わせることで、最大トルク領域を2,500回転まで引き伸ばしました。これにより多人数乗車で街中を移動する場合でも、ストレスを感じない力強い発進加速を実現しています。



ハイブリッド車用CVTを採用し、さらに専用のギアレシオを設定。

低回転域から高トルクを発揮するモーターアシストの特性を活かし、発進時により低い回転数でクラッチをつなぐ制御を行うことで発進加速性能と燃費を向上させる。ハイブリッド車用のCVTを採用。そのうえで、多人数乗車時や多積載時でも力強くスムーズに発進できるよう、従来のハイブリッド車用CVTよりも4.9%ローレシオに設定しました。これにより、素早く高トルク領域に達することでレスポンスのよい加速を実現しています。

ガソリンエンジン車には、走りや燃費のバランスに優れた4バルブ方式の1.5L i-VTECを搭載し、ECONモード^{*1}によってさらに実用燃費を向上。

高出力と低燃費の両立を重視した、吸排気効率に優れた4バルブ方式の1.5L i-VTECエンジン。高出力とともに全域で豊かなトルクを発揮するとともに、徹底したフリクションの低減などにより、FF車で16.6km/L^{**2}の低燃費を実現しています。また、ECONモード^{*1}で走行することでパワートレインやエアコンが省エネ運転を促進し、実用燃費を向上させます。

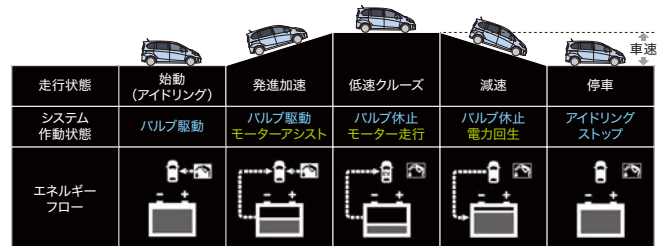
※1 ECONモードはフリード Spikeに新採用、フリードのガソリンエンジン車には従来モデルより採用。
※2 JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値) 装着するメーカーオプションによって異なります。

1.5L i-VTEC + INTEGRATED MOTOR ASSIST IMA CVT/FF

エンジン	最高出力(ネット値)	65kW[88PS]/5,400rpm
	最大トルク(ネット値)	132N・m[13.5kgf・m]/4,200rpm
モーター	最高出力	10kW[14PS]/1,500rpm
	最大トルク	78N・m[8.0kgf・m]/1,000rpm エンジン始動時: 92N・m[9.4kgf・m]/500rpm
エンジン + モーター	最高出力(Honda測定値)	73kW[99PS]/5,400rpm
	最大トルク(Honda測定値)	159N・m[16.6kgf・m]/1,000~1,500rpm
JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)		21.6km/L
10・15モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)		24.0km/L

「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。

■Hondaハイブリッドシステム作動イメージ



ハイブリッド車のさらなる低燃費運転を支援するエコアシスト。

エンジン、CVT、エアコンなどを燃費優先に制御する「ECONモード」、アンビエントメーターやエコドライブバーによって、エコ運転の状況を色の変化などで表示する「コーチング機能」、エコ運転度を採点、アドバイス^{**}する「ティーチング機能」を備え、低燃費運転を支援します。

※アドバイス機能はHondaインターナビ(タイプ別メーカーオプション)に搭載。

1.5L i-VTEC CVT/FF 5AT/4WD

最高出力(ネット値)	87kW[118PS]/6,600rpm
最大トルク(ネット値)	144N・m[14.7kgf・m]/4,800rpm
JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)	16.6km/L(FF) ^{**2} / 13.2km/L(4WD)
10・15モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)	17.0km/L(FF)/ 14.0km/L(4WD)

「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。



さらに上質な走りを追求した、ハイブリッド車専用技術。

トップグレードならではの、ワンランク上の乗り心地と静粛性。

先進の走りをさらに心地よいものにするために、トップグレードにふさわしい乗り心地や静粛性が得られるよう、ハイブリッド車専用のセッティングを施しました。

【シャシー設定】

サスペンションまわりでは、IPU搭載による後部の重量増加に対し、リアのキャンバー角とトレッドを拡大することで旋回時の安定性を向上。そのうえでフロント・リアともにダンパー特性などを最適化し、しなやかでフラットな乗り心地を実現しています。また、低燃費化のためにフロントブレーキキャリパーにパッドリターン springs を設置し、ブレーキ非作動時の走行抵抗を低減。さらに、転がり抵抗の低いタイヤを採用するなど燃費向上に貢献しています。

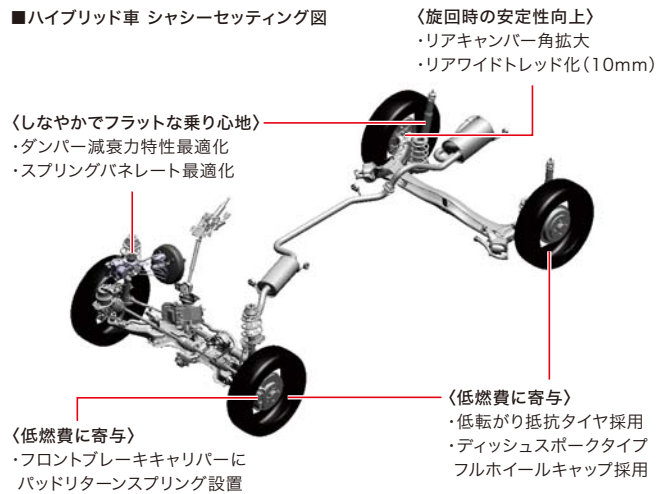
【高剛性化】

IPUの搭載を考慮し、左右のリアダンパー間をクロスメンバーとガセットで補強。リアホイールハウスのサス取り付け部の剛性を高めたことで優れた乗り心地と安定した走りを実現しています。

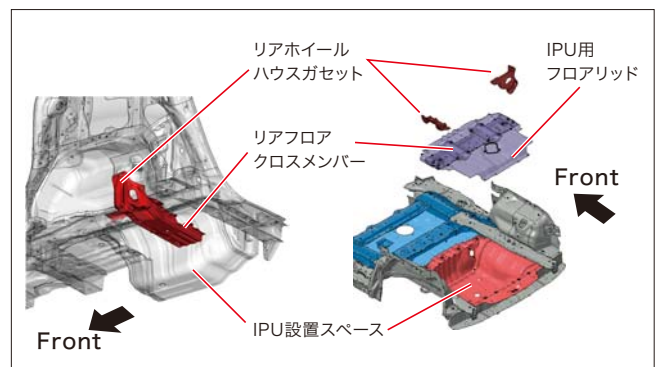
【静粛性向上】

ノイズの原因となる振動の伝達を抑えたうえで遮音材や吸音材を効果的に配置したガソリンエンジン車に対し、ハイブリッド車にはさらに専用の部材を施すとともに、遮音機能付フロントガラスを採用するなど、クラスを超えた静粛性を実現。モーターアシストによる静かな走行に加え、より快適な空間を生み出しています。

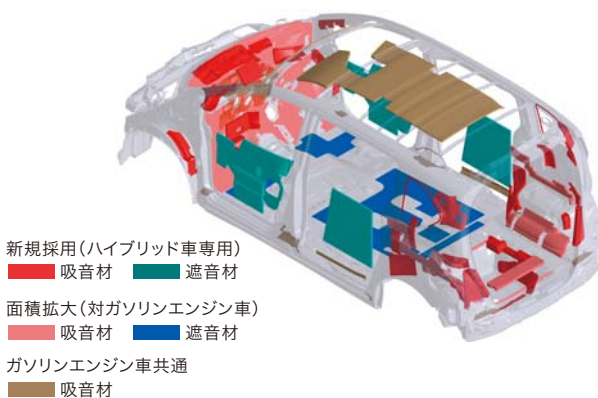
■ハイブリッド車 シャシーセッティング図



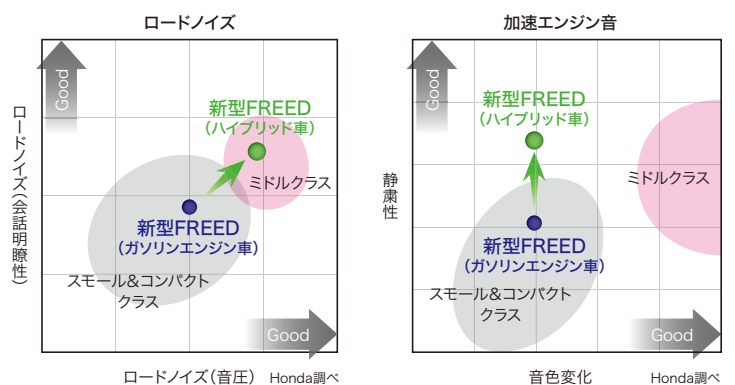
■ハイブリッド車 ボディ剛性対策図



■ハイブリッド車 吸音・遮音材配置図



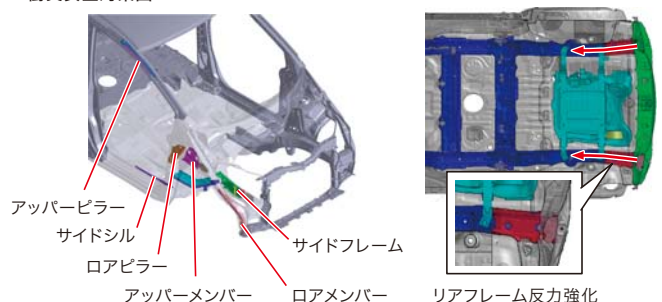
■静粛性比較イメージ



前面、後面ともに施した衝突安全対策。

前面衝突に対しては、車重増に伴いフロントの衝突対応部材の適所を補強。後面衝突への対応としては、IPUを設置するためにリアフレームを新規の構造としました。また、設置する位置をリアホイール後端より前とすることで、IMAバッテリーの電気安全性能も確保しています。

■衝突安全対策図

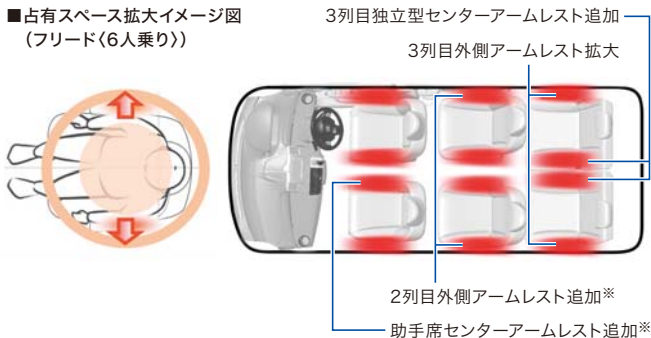


「一人ひとりの快適」を進化させた、ゆとりとくつろぎの新空間。

一人ひとりの占有スペースを拡大した 新たなシート設定。

コンパクトなボディサイズの中に想像を超える空間の広さ。この広さをさらに心地よくするために、多くの人の使い方を改めて検証しました。その結果、フリードの7人乗り/8人乗りというシート設定を6人乗り/7人乗りへと変更。3列目シートを同じ横幅のまま3席から2席にすることで、乗員一人ひとりの占有スペースを拡大し、着座時のゆったり感を大幅に向上しました。

■占有スペース拡大イメージ図 (フリード(6人乗り))



どの座席でもゆったり過ごせる、進化したくつろぎ感。

ゆったりと座る、という感覚をそれぞれの座席で体感できるよう、座席の両側にアームレストを装備*。助手席センター*や2列目キャブテンシート(6人乗り)外側*に追加するなど、これまで以上のくつろぎ感を実現し、「一人ひとりの快適」を進化させました。また従来同様、フリードの7人乗りには2列目シートを広く使えるタンブルシートを設定。フリード スパイクには簡単操作で荷室が広がるダイブダウン式のベンチシートを採用するなど、優れた使い勝手も確保しています。

*助手席センターおよび2列目キャブテンシート外側のアームレストはタイプ別設定。

FREED 6人乗り 2列目:キャブテンシート



Photo : Hybrid・ジャストセレクション 写真のオーディオホールリッドはディーラーオプション

FREED 7人乗り 2列目:タンブルシート



Photo : Hybrid・ジャストセレクション 写真のオーディオホールリッドはディーラーオプション

FREED Spike 5人乗り



Photo : Hybrid・ジャストセレクション 写真のオーディオホールリッドはディーラーオプション



2列目キャブテンシート両側アームレスト
(フリード(6人乗り)/外側はタイプ別設定)



2列目タンブルシート格納式
センターアームレスト(フリード(7人乗り))



3列目独立型センターアームレスト
(フリード)



3列目中央に左右席とも座面ポケットを
装備。柔らかい素材でつくり、停車中にお
子様が寝転がれるよう配慮しました。
(フリード)

快適、上質、安心の充実装備。



運転席ハイトアジャスター



本革巻ステアリングホイール
(タイプ別メーカーオプション)



グランスムース®&スウェード
調ファブリックコンビシート
(タイプ別メーカーオプション)



全席ヘッドレストおよび
3点式シートベルト



VSA (ABS+TCS+横すべり抑制)
ヒルスタートアシスト機能

主要装備・主要諸元・環境仕様書についてはカタログをご覧ください。

Hondaはより多くの人々のライフスタイルに応えるために、 多彩なハイブリッドカー展開を進めています。

Hondaは、低燃費による経済性と優れた環境性能をあわせ持つハイブリッドカーを多機種にわたって展開しています。これまで、ハイブリッド専用車だけにとどまらず、乗る人の好みやライフスタイルにマッチしたクルマで、なおかつハイブリッドカーも選択できることが理想と考え、スモールカー「フィット」やワゴンタイプのコンパクトカー「フィット シャトル」にハイブリッドカーを設定し販売しています。

そして今回、毎日の暮らしで使いやすいコンパクトミニバン「フリード」と、趣味や遊びに大いに活用できるユーティリティワゴン「フリード スパイク」に、ハイブリッドシステムを搭載。フリードシリーズならではの低くてフラットなフロア設計と、Honda独自の軽量・コンパクトな「エンジン+IMA(インテグレートッド・モーター・アシスト)」の利点を活かしたパッケージングにより、広々とした居住空間や荷室を犠牲にすることなくハイブリッドカーを実現しました。

Hondaは今後もハイブリッドシリーズをさらに充実させることで、より多くの人に快適で経済的なカーライフを提供していくとともに、環境負荷の少ないクルマづくりを進め、低炭素社会へのさらなる貢献を目指します。

